

(徳島県文化財保護審議会から答申を受けた文化財)

種別	名称	員数	所在地	所有者及び管理者
有形文化財 (考古資料)	矢野遺跡土製仮面	一点	徳島県板野郡板野町 犬伏字平山86番2	徳島県 徳島県立埋蔵文化財総合 センター

## 参考

### 【矢野遺跡土製仮面の概要】

矢野遺跡土製仮面は、一般国道192号徳島南環状道路建設工事に伴い、平成4年度から10年度にかけて発掘調査が行われた矢野遺跡（徳島市国府町）から出土した。矢野遺跡は縄文時代から中世にかけての、県下有数の複合遺跡であり、縄文時代の集落跡は南北300m（調査区の関係で東西幅は不明）に及び、不明瞭な遺構が多いものの、19棟の竪穴住居等を確認した。出土品は約85,400点に及び、土製仮面以外にも、亀形土製品や円柱状土製品等の特異な土製品のほか、赤色顔料（水銀朱、ベンガラ）が付着した133点の土器片が出土した。

矢野遺跡土製仮面は、平成8年度の調査で出土した。ややいびつな円形で平板な粘土板に、隆帯によって左右の眉と鼻のラインを、円形の大きい切り抜きによって目と口を表現している。土製仮面は全国で約120点のが出土しているが、矢野遺跡土製仮面の出土地点は最西端に位置し、かつ現段階では最古級と考えられ、貴重な資料である。現在は、徳島県立埋蔵文化財総合センターにおいて、適切に管理されている。